

■ **華岡青洲** 外科医師。内服全身麻酔剤を案出し、世界に先駆けて全身麻酔手術に成功、華岡流外科創始者となった。

はなおかせいしゅう

大岡忠光没・1760 = 紀伊国那賀郡西野山村で、_オランダ外科を学んだ医師華岡直道の子に生まれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1769 = **9歳**：

田沼意次老中1772 = 12歳：

船蝦夷来 1778 = **18歳**：

早くから遊学を望んでいたが、家が貧しく、妹の稼ぎを支えに、

天明大飢饉始1782 = 23歳：_ようやく京都に出て、吉益南涯に古医方を、大和見立にオランダ外科を学ぶ。

蝦夷初調査・1785 = 25歳：_帰郷、父が死去したため家業を継いだ。

田沼意次失脚1786 = 26歳：

寛政改革始・1787 = **27歳**：

のち再び京都に出たが、

松平定信引退1793 = 33歳：

同地での体験をもとに、_曼陀羅華(チョウセンアサガオ)配合の内服全身麻酔剤の調合に取組み、

ブートン来航・1796 = **36歳**：

_母の献身的な人体実験(妻説もある)で臨床薬理学的検討を加えたうえ、

蝦夷地直轄始1799 = 39歳：母が死去。

_20年近くかけて、内服全身麻酔剤"通仙散"の創出に成功し、

一丸膝栗毛始1802 = 42歳：***評判を耳にした紀州藩主に帯刀を許される。**

バノウラ来航・1804 = 44歳：***初の本剤使用による乳癌摘出手術に成功した(これは、モートンらの発案になるエーテル麻酔法に40年ばかり先立つものであった)。**

青洲麻酔手術1805 = **45歳**：

フェートン号事件 1808 = 48歳：灌漑用の溜池を造成して、村民を救済している。

_その後も他の部位の癌、奇形、結石などの手術を行ったが、やはり乳癌の手術できこえ、各地から患者が集まった。杉田玄白や大槻玄沢も青洲を褒め讃えている。

浮世床・ ・ ・ 1813 = **54歳**：

この華岡流外科を学ぶためにほぼ全国から入門者があり、そのため、建坪220坪の住居兼病院・医学校を新たに建設。{春林軒}と名づけ、ここから輩出した門下生は1,000人を超え、

伊能測量終・1816 = 57歳：***大坂中之島に分校{合水堂}を開設するに至り、ここでも1,000人を超える膨大な人数になった。**

水野忠成老中1818 = 59歳：

群書類従完結1819 = 60歳：_紀州藩の小普請医師。

英船浦賀来航1822 = **63歳**：

富嶽三十六景1831 = **72歳**：

天保大飢饉始1833 = 73歳：_来奥医師格となり、

滑稽+人情本 1835 = 75歳：_没した。

「人づくり風土記(和歌山)」,「この人どんな人」,「没年日本史人物事典」,平凡社百科事典,「本朝医人伝」,「目でみる日本人物百科」,日本の古典名著,